

学期レポート 2012 年夏学期

BOSTON
UNIVERSITY

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業

第 4 期生 武田 太一



忙しい夏

夏学期の間はクラスだけでなく、アルバイトやボランティアなどもしていたため、忙しい夏であった。どこかに旅行に行くなど余裕はなかったが、学業はもちろん課外活動を通して得られたこともいくつかあるため、有意義なものになったのは確かである。その傍ら、毎年夏になるとエアコンを買うか買わないか迷うのだが、今年は大学にいたることが多かったため何とか乗り切れそうである。

夏学期の講義

夏学期はサマー1 とサマー2 に分けられ、それぞれ 6 週間ある。(講義によっては 12 週間に渡るクラスもある。)自分はサマー1 と 2 でそれぞれ 1 クラスずつ受講した。受講したクラスは以下の通りである。いずれも週に 2 回、3 時間半から 4 時間に及ぶクラスであった。

- RS600 Introduction to Research 研究入門
- PS560 Cross-Cultural Psychology 異文化心理学

RS600 Introduction to Research 研究入門

ろう教育コースで必須となっている講義である。質的研究と量的研究の違いを学び、研究課題や研究方法の決め方、文献の集め方など講義を通して教わった。これらを基に、最終プレゼンテーションは自分の研究テーマとその内容について仮ではあるが、発表するというものであった。

さすがに研究ともなると様々な用語が飛び交い、それらを覚えるのが大変であった。特に自分を含めた受講生みんなが頭を抱えたのが調整変数と媒介変数の違いである。例えば会社で人間関係がうまくいかず、ストレスを引き起こすという問題があるとしよう。この人間関係がうまくいかないことは独立変数にあたり、ストレスは人間関係の善し悪しによって左右されるので従属変数にあたる。この独立変数と従属変数の関係は調整変数あるいは媒介変数で左右される。もし人間関係がうまくいかないことで、カウンセリングを受けていた場合は、このカウンセリング自体が目に見える形で調整されるため調整変数となる。これに対し、当の本人が心の支えとなっている友人がいるかどうかは目に見えていないかこれが媒介要素となってストレスの増減に影響

響している場合がある。この友人の有無が媒介変数となる。と、分かりやすく説明したつもりであるが、完全に理解するにはまだまだ研究経験の積み重ねが必要だと思った。

これ以外にも研究論文ではよく見かける $p < 0.05$ という有意確率の説明があった。確かに今まで読んだ論文の中でデータの説明には大体この数字記号をよく見かけるが、意味は全く分からないままであった。この有意確率は研究における仮説がどのぐらいの割合で間違っているのかを示すものである。この p が低ければ低いほどこのデータは信頼性があるということになり、 $p < 0.05$, $p < 0.01$, $p < 0.001$ であれば良いということになる。

今までに学んだ内容は秋学期に待ち構えている修士論文の執筆にも参考になる上に、今まで論文を読むのに苦労していたのが、だいぶ理解しやすくなって来た。今後もこの講義を思い出しながら、論文などを読んでいけたらと思う。

PS560 Cross-Cultural Psychology 異文化心理学

異文化心理学は個々が持つ文化の違いを理解する内容で進められた。人種のるつぼと言われるアメリカでは様々な人種が集まっている上に、男女差や性的指向、宗教などあらゆる要素も含めて数多くの文化背景が個人それぞれ異なっている。今までに学んだ心理学の用語が所々出てくるので、日本で学んだことを(発達心理学、教育心理学など)を思い出ししながら、英単語をチェックしつつ受けた講義であった。

自分は聾であること、日本人であることを文化背景として有しているのをそれを他の受講生と共有しながら進めてきた。アメリカでは日本人に接する機会や、日本の文化を知る機会が多くあるが、聾者になると結構限られるようである。特に人工内耳に対する見方や、ろう文化の知識など偏った見方があるため、講義を通していくつか説明させていただいた。逆に自分も受講生や教員から学ぶことが多く、共感出来る部分もあった。文化の違いは決して卑下するようなものではなく、尊重されるべきものである。たとえ、それが受け入れ難いものであっても、その文化がその個人にとっては自然なものであるからこそ、互いに理解し合って対等に扱うべきであるということ学んだ講義であった。

今後の行方

ボストン大学での講義も秋学期と来年の春学期を残すのみである。秋学期は特別支援教育クラスをいくつか受講する傍ら、修士論文を執筆する。論文のテーマはまだ未定であるが、満足のいくものが書けたらと思う。ボストン大学でのろう者学コースやろう教育コースの教員も何人か変わり、新たな顔ぶれでスタートを切る。新しい学生たちもやってくるので、今年もまた新たな風を感じながら、楽しく過ごしていけたらと思う。